

令和6年10月17日

千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。また、【 】内の数値は左側が9月下旬～10月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値(過去10年の平均値)を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ(※)の「総合防除の内容」を参照するとともに、3ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

### 千葉県総合防除計画(令和6年3月版)



作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (9月下旬～10月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
夏 秋 ト マ ト	灰色かび病	やや少	発病株率：やや少【0.00%/2.33%】(-) 気象予報：降水量並か多(+)日照時間並か少(+)	31
	すすかび病	並	発病株率：並【34.67%/36.79%】 気象予報：降水量並か多(+)日照時間並か少(+)	31
	黄化葉巻病	多	発病株率：多【41.67%/3.24%】(+) 成虫寄生株率(タバココナジラミ)：多【48.44%/8.87%】(+)	31
	タバココナジラミ	多	成虫寄生株率(タバココナジラミ)：多【48.44%/8.87%】(+) 成虫寄生株率(オンシツコナジラミ)： やや少【3.11%/18.56%】(-)	33
	オンシツコナジラミ	やや少	9月黄色粘着トラップ誘殺数：多【2012.72頭/418.82頭】(+) 気象予報：気温高(+)降水量並か多(-)	
	アザミウマ類	並	成幼虫寄生株率：やや少【0.00%/7.80%】(-) 9月黄色粘着トラップ誘殺数：並【4.44頭/25.58頭】 気象予報：気温高(+)	32
冬 キ ヤ ベ ツ	黒腐病	やや多	本年4月発病度：並【0.00/0.10】 発病度：並【0.00/0.25】 気象予報：気温高(+) 降水量並か多(+)	36

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (9月下旬~10月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
秋冬ネギ	黒斑病	少	発病度：少【0.00/4.57】（-） 気象予報：降水量並か多（+）	33
	さび病	並	発病度：並【0.00/0.03】 気象予報：降水量並か多（+）	34
	べと病	並	発病株率：並【0.00%/0.40%】 8月の日最低気温の平均値に基づく推定発生確率（ねぎべと病なび）（県北西部、北東部のアメダス地点）：0~25%（-） 気象予報：気温高（-）降水量並か多（+）日照時間並か少（+）	34
	ネギアザミウマ	やや少	成幼虫寄生株率：やや少【18.40%/28.55%】（-） 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	34
イチゴ	うどんこ病	並	発病株率：並【0.53%/1.12%】 気象予報：日照時間並か少（+）	42
	ハダニ類	並	成虫寄生株率：並【3.20%/5.79%】 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	45
温州ミカン	ミカンハダニ	多	成虫寄生株率：多【9.00%/1.90%】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	28
	カメムシ類	並	払落虫数：やや少【0.00頭/0.94頭】（-） 9月予察灯誘殺数：並【11.0頭/33.9頭】 9月フェロモントラップ誘殺数：やや多【10.64頭/6.91頭】（+） 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	28
ビワ	灰斑病	やや多	発病葉率：やや多【2.50%/1.63%】（+） 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（+）	-
カーネーション	アザミウマ類	少	被害株率：少【0.00%/14.83%】（-） 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（-）	-
	ハダニ類	並	成虫寄生株率：並【2.40%/4.91%】 気象予報：気温高（+） 降水量並か多（-）	-
野菜・花き共通	コナガ	少	寄生幼虫蛹数（冬キャベツ）：並【0.00頭/0.00頭】 9月フェロモントラップ誘殺数：少【0.04頭/0.51頭】（-） 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	45
	ハスモンヨトウ	やや多	9月フェロモントラップ誘殺数：並【26.97頭/26.75頭】 被害株率（秋冬ネギ）：並【0.00%/0.28%】 "（イチゴ）：多【25.87%/7.71%】（+） 幼虫寄生株率（夏秋トマト）：並【0.00%/0.04%】 "（イチゴ）：並【1.87%/1.57%】 "（カーネーション）：並【0.00%/0.40%】 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	46
	シロイチモジヨトウ	多	9月フェロモントラップ誘殺数：多【11.32頭/2.62頭】（+） 被害株率（秋冬ネギ）：多【29.60%/2.37%】（+） 幼虫寄生株率（カーネーション）：並【0.00%/0.16%】 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	46
	オオタバコガ	やや多	9月フェロモントラップ誘殺数：やや多【4.82頭/3.64頭】（+） 幼虫寄生株率（カーネーション）：並【0.00%/0.02%】 気象予報：気温高（+）降水量並か多（-）	45

\* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

\* 2 予察灯誘殺数：1か月30日当たりの誘殺数

## 1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

## 2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

- (1) 黄化葉巻病・コナジラミ類（夏秋トマト）

令和6年度病害虫発生予察注意報第5号「トマト黄化葉巻病の発生に注意」も参照する。



- (2) ハスモンヨトウ（野菜・花き共通）

P 4～5「これから注意を要する病害虫」も参照する。

- (3) シロイチモジヨトウ（野菜・花き共通）

令和6年度病害虫発生予察注意報第4号「シロイチモジヨトウによるネギの食害に注意」も参照する。



- (4) タバコガ類（野菜・花き共通）

令和6年度病害虫発生予察注意報第3号「オオタバコガの多発生に注意」も参照する。

P 6～7「これから注意を要する病害虫（レタス オオタバコガ）」も参照する。



## Ⅱ これから注意を要する病害虫

### ハスモンヨトウ

ハスモンヨトウは、中齢以降の幼虫で薬剤の効果が低下しやすい「難防除害虫」の一種で、年により異常に多発生する。幼虫がエサとする植物の種類は極めて多く、「畑作物」「野菜類」「花き類」だけでなく「果樹」にまで被害を及ぼすこともある。

本年は、春先からフェロモントラップへの誘殺が多い（図1）。また、9月下旬～10月上旬の巡回調査では、「夏秋トマト」「秋冬ネギ」「カーネーション」で幼虫寄生や被害は確認されなかったが、「イチゴ」では被害株率が「多」となったほか、「ナシ」で卵塊や幼虫の寄生があった。9月のフェロモントラップ調査では、1日当たりの誘殺数は26.97頭（平年値：26.75頭）で、「平年並」の発生であった。

2ページの病害虫発生予報では、向こう1か月間のハスモンヨトウの発生は平年よりやや多いと予想しており、注意が必要である。本県では10～11月の誘殺が多く、施設への飛び込みによる被害も懸念されるので、ほ場をよく観察し、発生初期からの防除を心掛ける。

#### <生態>

卵は、数百個が一塊となって葉に産み付けられ、卵塊の表面は「雌成虫の体毛」によって覆われる（写真1）。

2齢幼虫までは斑紋がほとんど現れないが、3齢幼虫以降は第1腹環節の横に「1対の黒く明瞭な斑紋」が現れる（写真2・図2）。成長した幼虫の体色は、灰緑暗色・暗褐色など変化に富む。

成虫は、前翅に「斜めに交差して走る数条の淡褐色の縞模様」がある。

#### <加害>

ふ化幼虫は、集団で表皮を残して食害する（写真3）。

3齢幼虫以降は、分散し、食害量が増加するので穴開きの被害となる。多発時には、太い葉脈と中肋のみが残るような、畑一面が丸坊主となる激しい被害となる。

#### <防除対策>

- 1 常発地では、フェロモントラップを設置するなど、「発生消長の確認」に努める。
- 2 早期発見に努め、卵塊や分散前の若齢幼虫を捕殺する。
- 3 施設等では、開口部に防虫網を設置し、成虫の侵入を防止する。
- 4 薬剤による防除は、中齢幼虫以降になると薬剤の効果が低下するため、できるだけ若齢幼虫のうちに行う。
  - (1) 周辺の作物での発生状況にも注意し、発生初期の防除を徹底する。
  - (2) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、IRACコードが異なる薬剤をローテーションで選択する。
  - (3) 夜間活動し、昼間は下葉や葉裏などにひそんでいるので、薬剤散布は丁寧に行う。
- 5 成虫の飛来を抑制するために、夜間に黄色灯を点灯し、ほ場全面を明るく保つ方法がある。この場合、ほ場の明期が延長されることによって、作物の生長に影響を及ぼすことがあるので注意する。
- 6 性フェロモン剤を利用した防除では、被害発生前からの設置によって「交信かく乱法」により交尾率を下げ、産卵数を減少させることが期待できる。

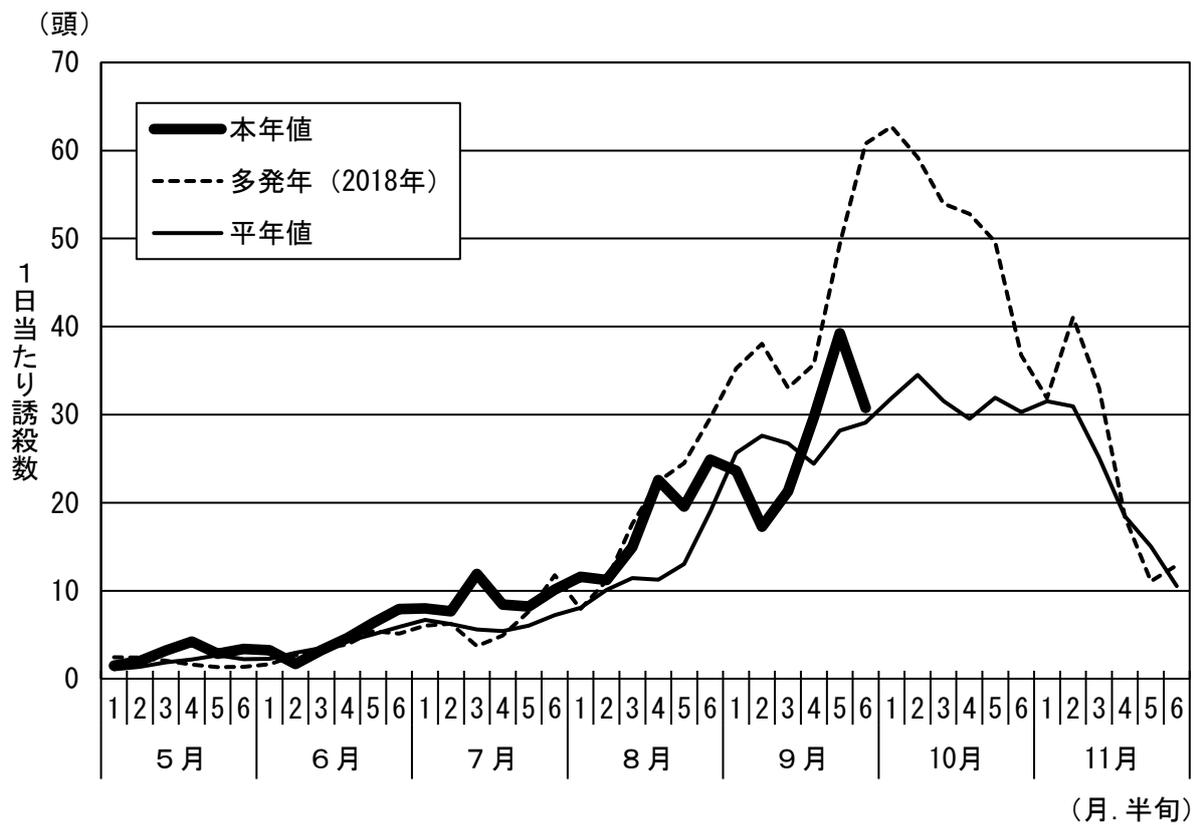


図1 ハスモンヨトウ雄成虫のフェロモントラップへの誘殺数の推移 (県内12地点の平均)



写真1 卵塊



写真2 中齢幼虫



写真3 集団で食害する若齢幼虫

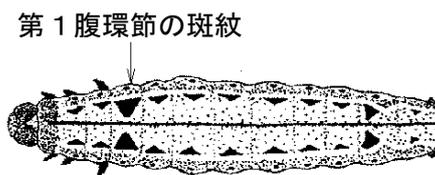


図2 中齢幼虫の形態

レタス オオタバコガ

オオタバコガは、幼虫がレタスの結球内部に食入するため（写真1）、経済的な被害につながりやすい。幼虫は薬剤がかかりにくいだけでなく、中齢期以降は農薬に対する感受性が低いため、防除が困難な害虫である。

本年は初夏からフェロモントラップへの誘殺が多く（図）、6、7月の1日当たり誘殺数は過去8年で1位、8月は2位、9月は3位であった。また、10月10日に発表された気象庁の1か月予報によると、関東甲信地方の平均気温は高い見込みであることから、成虫（写真2）への羽化が続く可能性が高く、それにしたがって産卵も続くと考えられる。

以上のことから平年を上回る被害が予想されるため、注意する必要がある。

<生態と加害>

年間の発生世代数は3～4回である。

卵は、葉上に卵塊ではなく1卵ずつ産み付けられ（写真3）、25℃条件では約3日でふ化する。

ふ化直後の幼虫は葉上で食害を加えるが、しばらくすると結球部に食入し内部を加害する。

このため、外観から被害を確認することが難しい。



写真1 レタス結球内部を加害する終齢幼虫

写真2 成虫

写真3 卵

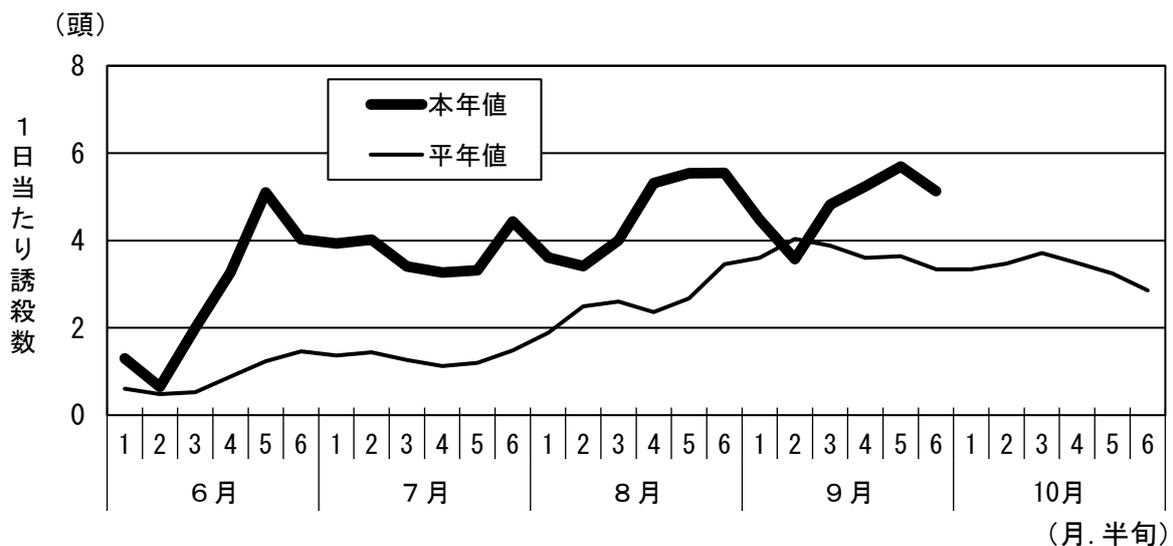


図 オオタバコガ雄成虫のフェロモントラップへの誘殺数の推移（県内8地点）

<防除対策>

- 1 食害痕や糞の近くには幼虫がいる可能性が高いので、発見に努め、見つけ次第捕殺する。
- 2 薬剤（表）による防除は、中齢幼虫以降になると薬剤の効果が低下するため、若齢幼虫のうちに行う。定植前日の灌注処理が効果的である。
- 3 防蛾用黄色灯の夜間点灯を行う。

<注意事項>

- 1 農薬（特に灌注剤）の使用に当たっては、最新の農薬登録情報を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。
- 2 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、ローテーション散布を行う。

表 オオタバコガに対する主な防除薬剤（令和6年10月2日現在）

使用方法	I R A C コード ※1	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数 ※2
灌注	4 A・28	ジュリボフロアブル	200倍	育苗期後半～ 定植当日	1回
	28	ベリマークSC	400倍		
散布	5	ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内
	6	アフーム乳剤	1,000～2,000倍	収穫3日前まで	3回以内
	13	コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
	15	カスケード乳剤	4,000倍	収穫3日前まで	3回以内
	18	ファルコンフロアブル	2,000～4,000倍	収穫3日前まで	2回以内
	22A	トルネードエースDF	2,000倍	収穫7日前まで	2回以内
	22B	アクセルフロアブル	1,000～2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	28	プレバソンフロアブル5	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	30	グレーシア乳剤	2,000～3,000	収穫3日前まで	2回以内
	UN	プレオフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内

※1 I R A C（殺虫剤抵抗性対策委員会）コード：殺虫剤の作用機構の分類を表すものである。

- 4 A：ネオニコチノイド系
- 5：スピノシン系
- 6：アベルメクチン系・ミルベマイシン系
- 13：ピロール・ジニトロフェノール・スルフルラミド
- 15：ベンゾイル尿素系
- 18：ジアシル-ヒドラジン系
- 22A：オキサジアジン
- 22B：セミカルバゾン
- 28：ジアミド系
- 30：メタジアミド系・イソキサゾリン系
- UN：活性に関わる標的タンパク質が不明あるいは不明確な剤

※2 薬剤名が異なっても同じ成分を含む薬剤があるので、散布前に確認し、同じ成分が含まれる場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。ジュリボフロアブルは2成分含まれるため、使用回数に注意する。

## ○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（イネ：8月中下旬、果樹・花き：9月下旬、サツマイモ・野菜：9月下旬～10月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考	
			本年値	平年値	前年値		
イネ	斑点米 黒点米(黒点症状米を含む) その他着色粒	発生粒率(%)	0.25	0.28	0.24	1.7mmで篩掛 けした玄米 5000粒で調査	
		発生粒率(%)	0.11	0.03	0.08		
		発生粒率(%)	0.22	0.21	0.08		
サツマイモ (印旛、香取)	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ イモキバガ	100葉あたり寄生幼虫数	0.50	0.88	1.75		
		100葉あたり寄生幼虫数	0.25	0.48	0.00		
		被害葉率(%)	0.00	1.80	5.25		
夏秋トマト (山武、印旛)	灰色かび病	発病株率(%)	0.00	2.33	0.00		
		発病果率(%)	0.00	0.03	0.00		
		果実発病度	0.00	0.40	0.00		
	すすかび病	発病株率(%)	34.67	36.79	15.11		
		発病株率(%)	41.67	3.24	6.11		
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	3.11	18.56	28.44		
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	48.44	8.87	15.11		
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.04	0.00		
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	0.00	1.92	0.00		
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	7.80	0.00		
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	2,012.72	418.82	1,609.13		
アザミウマ類	黄色粘着トラップ誘殺数	4.44	25.58	2.54			
冬キャベツ (海匠)	黒腐病 コナガ ハスモンヨトウ	発病度	0.00	0.25	0.00		
		10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.00	0.00		
		幼虫寄生株率(%)	0.00	0.10	0.00		
秋冬ネギ (山武、長生)	黒斑病 さび病 べと病 ネギアザミウマ	発病度	0.00	4.57	0.00		
		発病度	0.00	0.03	0.00		
		発病株率(%)	0.00	0.40	0.00		
	ハスモンヨトウ シロイチモジヨトウ ネギコガ ネギハモグリバエ	被害度	8.80	22.48	9.10		
		成幼虫寄生株率(%)	18.40	28.55	12.80		
		被害株率(%)	0.00	0.28	0.00		
	イチゴ (山武、海匠、安房)	うどんこ病 アブラムシ類 ハスモンヨトウ ハダニ類	被害株率(%)	25.87	7.71	15.73	
			幼虫寄生株率(%)	1.87	1.57	1.33	
成虫寄生株率(%)			3.20	5.79	2.13		
成虫寄生株率(%)			3.20	5.79	2.13		
ナシ (県内全域)	黒星病 炭疽病 ハマキムシ類 ハダニ類 アブラムシ類	発病葉率(%)	0.03	0.43	0.21		
		発病新梢率(%)	0.00	0.14	0.06		
		被害葉率(%)	0.00	0.03	0.00		
		成虫寄生葉率(%)	0.94	0.92	0.09		
		成幼虫寄生新梢率(%)	0.15	0.17	0.21		
温州ミカン (安房)	そうか病 かいよう病 黒点病 ヤノネカイガラムシ ミカンハダニ アブラムシ類 ミカンハモグリガ カメムシ類	果実発病度	0.28	0.15	0.08		
		果実発病度	0.00	0.00	0.00		
		果実発病度	0.00	0.89	0.00		
		成幼虫寄生果率(%)	0.00	0.02	0.00		
		成虫寄生葉率(%)	9.00	1.90	4.80		
		成幼虫寄生新梢率(%)	0.00	1.38	0.20		
		幼虫寄生葉率(%)	1.80	0.94	0.00		
		被害果率(%)	0.00	0.04	0.00		
ビワ (安房)	灰斑病 アブラムシ類 カミキリムシ類	発病葉率(%)	2.50	1.63	5.25		
		成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00		
		被害穴数	0.25	0.48	0.00		
カーネーション (安房)	萎凋病 立枯病 アザミウマ類 シロイチモジヨトウ ハスモンヨトウ ヨトウムシ類 ハダニ類 オオタバコガ	発病株率(%)	0.00	0.48	0.00		
		発病株率(%)	0.80	0.40	0.00		
		被害株率(%)	0.00	14.83	0.60		
		幼虫寄生株率(%)	0.00	0.16	0.00		
		幼虫寄生株率(%)	0.00	0.40	0.00		
		被害株率(%)	0.00	3.73	0.00		
		成虫寄生株率(%)	2.40	4.91	0.00		
		幼虫寄生株率(%)	0.00	0.02	0.20		

トラップ月間誘殺数（9月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稻予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	0.7	0.4	0.0	頭/月
	セジロウンカ	〃	0.0	2.4	0.0	
	トビイロウンカ	〃	0.3	0.3	0.0	
	ヒメトビウンカ	〃	5.7	1.8	1.1	
	ツマグロヨコバイ	〃	2,661.3	427.1	197.8	
	フタオビコヤガ	〃	3.3	1.3	1.0	
	ニカメイガ	〃	14.3	2.2	13.3	
	コブノメイガ	〃	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	〃	147.3	36.3	28.9	
	クモヘリカメムシ	〃	35.0	2.7	11.7	
	ホソハリカメムシ	〃	1.0	0.3	0.4	
	シラホシカメムシ類	〃	0.0	-	0.0	
	イネカメムシ	〃	104.7	5.8	4.3	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	7.7	2.3	4.3	
	アカスジカスミカメ	〃	60.0	28.6	57.5	
ミナミアオカメムシ	〃	146.3	12.3	4.3		
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	〃	6.0	13.6	22.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	1.0	5.3	7.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	4.0	15.1	6.0	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	1.78	3.08	1.02	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.02	0.97	0.03	
	コナガ	海匠、安房	0.04	0.51	0.46	
	ハスモンヨトウ	県内全域	26.97	26.75	26.56	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	11.32	2.62	6.30	
	オオタバコガ	県内全域	4.82	3.64	6.50	
	タバコガ	県内全域	1.31	1.25	1.95	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	3.72	1.76	3.92	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.00	0.01	0.02	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	3.72	1.77	3.94	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	0.66	0.41	0.16	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	1.16	1.38	0.76	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	1.82	1.80	0.92	
チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	7.80	5.49	4.69	頭/日
	ツヤアオカメムシ	〃	1.11	0.96	2.79	
	クサギカメムシ	〃	1.72	0.47	0.50	
	カメムシ類	〃	10.64	6.91	7.97	
	マルボシヒラタヤドリバエ（天敵）	〃	0.60	0.40	0.29	

## ○気象予報

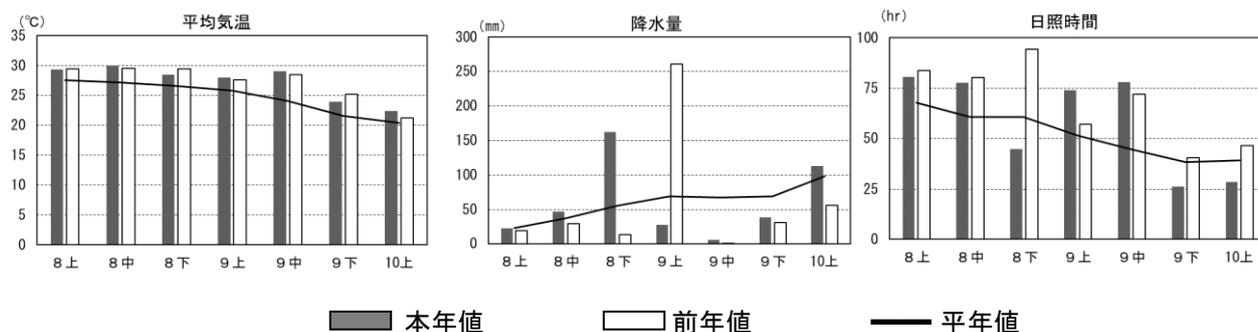
10月10日気象庁発表  
関東甲信地方における向こう1か月の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	10	80
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月の各気象要素の平年値  
(10月12日～11月11日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	16.7	17.5	16.8
降水量(mm)	158.4	205.9	206.4
日照時間(hr)	141.5	143.7	146.0



過去2か月の気象概況(アメダス千葉、銚子地方気象台提供)

## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>
- ・ 次回の発行予定は11月19日です。  
なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。
- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。  
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

